

令和2年度実施 学校評価アンケート結果について

令和2年度実施の「学校評価アンケート」の結果を報告させていただきます。アンケートの結果は、校内で活用するだけでなく、学校運営協議会にも報告し、ご意見を頂くことで学校運営の改善に役立てています。また、この「学校評価アンケート」の他にも、生徒の学力分析の結果・社会性アンケートの結果・学校行事のアンケートの結果などを参考にして年2回の「学校評価」を実施しています。

○保護者アンケートの結果

今年度は登校できない期間やソーシャルディスタンスを意識した授業が行われ、例年とは違う状況でのスタートとなりました。その影響もあり、ほとんどの内容の実現度が下がり、特に集団での学び合いや小中連携、地域行事への参加での実現度が下がっています。社会が大きく変化している中で物理的に難しいこととは別に、新しいスタイルでのわかる授業を目指していくことや、小中連携・地域との連携も模索していかなければならないことを保護者アンケートからも読み取ることができます。この状況の中でプラス面もあり、家庭で過ごす時間が増えたことから、読書の時間が増え、学校が積極的に情報発信を行っている、の実現度が高くなっています。ホームページやPTAメール配信、YouTube動画の発信や学校メール等、双方向での情報交換も行いました。今後もICTの活用を含め、新しい時代に対応できるように、授業・小中連携・地域連携を模索していく必要があります。

○教職員アンケートの結果

授業改善の研究の成果もあって、授業に対しての重要度・実現度が高くなっています。しかしながら、例年通りの授業ができなくなり、新しいスタイルでの授業を模索していく必要があること、小中連携や地域連携での実現度が低くなりニーズ度が高くなっていることは気になります。変化に対応していく姿勢はこれからも学び続けなければなりません。

○生徒アンケートの結果

昨年度、授業中進んで発表することの数値が全学年低くなっていたのが、今年度は逆に高くなっています。積極的に生徒が発言する機会と意欲が見受けられます。3年生は全般的に実現度低くなっています。教え合い・学び合いの授業から変わった影響も考えられますが、学校の勉強がわかるように授業改善を行っています。2年生は全般的に実現度の数値が高くなっています。学校生活で、友達を大切にすることやありがとうを声に出して伝えることなど、自分だけでなく相手のことを考えて行動することの数値が高くなっています。1年生は昨年度との比較ができないのですが、全体的に重要度が低いところが若干気になります。12月のアンケートでの比較から改めて分析していきます。

全般的には、読書の時間が少ないことや地域との連携が難しくなっていることが気になります。選書会を行い、興味のある本を購入したり、生徒会を中心に近隣の高齢者施設へのマスクを寄付したりしていますが、活動が限られていることで例年通りとはいかない状況となっています。